子どもセンターてんぽシンポジウム

飛び立つために羽を休めてvol.13

「家」なき子どもたちはどこへ？

1. てんぽ及びみずきの家の活動報告
2. テレビドラマにみる子どもシェルター
3. 講演「児童福祉は子どもとつながれるのか」

講演者　作家　石井光太

1977年東京都生まれ。2005年にアジア諸国の障害者や物乞いをルポした「物乞う仏陀」でデビュー。ノンフィクションを中心に、小説や児童書など幅広く執筆活動を行う。主な著書に「レンタルチャイルド」「遺体」「浮浪児 1945-」「「鬼畜」の家」「43回の殺意」「原爆」などがある。2018年10月「漂流児童　児童福祉の最前線」を刊行。

2019年 5月25日（土）

午後 1：30 ～ 4：30（開場 1：00）

港南区民文化センター

「ひまわりの郷」ホール

〒233-0002　横浜市港南区上大岡西 1-6-1　http://www.himawari-sato.com/

※裏面に地図掲載

先着：340人（予約不要）　　参加費：無料

主催：認定特定非営利活動法人子どもセンターてんぽ

寄付：三井住友銀行ボランティア基金

後援：神奈川県　神奈川県教育委員会　神奈川県社会福祉協議会　横浜市　横浜市教育委員会　横浜市社会福祉協議会　川崎市　相模原市　ｔｖｋ　神奈川新聞社

※申請中を含みます

お問合せ　子どもセンターてんぽ事務局　TEL: 045－473－1959（月～金 9:30-17:30）　http://www.tempo-kanagawa.org/

子どもセンターてんぽが運営する子どもシェルターや自立援助ホームには、虐待その他の理由により行き場をなくした子どもたちがやってきます。しかし、支援が必要な子どもたちは、社会にまだまだ沢山います。

作家の石井光太さんは、様々な現場を丁寧に取材し、それを「漂流児童」（2018年10月、潮出版社）にまとめています。行き場をなくし、社会に漂流してしまう子どもたちの抱える現実や、その現実とかかわることの難しさなどを、様々な事例からお話しいただきます。

福祉の制度や私たちの活動が、今よりもっと子どもたちに届くために何が必要か、ご一緒に考えてみませんか。

「子どもセンターてんぽ」とは？

10代後半の子どもたちの自立を支援することを目的に設立されたＮＰＯ法人です。２０１６年３月に認定ＮＰＯ法人格を取得しました。

安心して生活できる場所がない子どものための緊急避難施設である子どもシェルターてんぽ（定員男女６名）と、家庭で生活できなくなり働かざるを得なくなった子どもたちが共同生活を通して自立のための準備をする自立援助ホームみずきの家（定員女子６名）を運営しています。

私たちは、子どもたちに安全・安心・清潔な住まいとおいしい食事を提供し、利用する子どもの人権を守り、一人ひとりの自立に向けたペースを尊重し、いつも真剣に、ねばり強く、寄り添います。

利用する子どもが望むとき（退所後も）、けっしてその子どもをひとりにはしません。

てんぽでは
ボランティアや寄付を
募集しています

※子どもシェルターを舞台にしたフジテレビ系列のドラマ「さくらの親子丼２」（2018年12月～2019年１月毎週土曜日23:40～）が、放映されました。

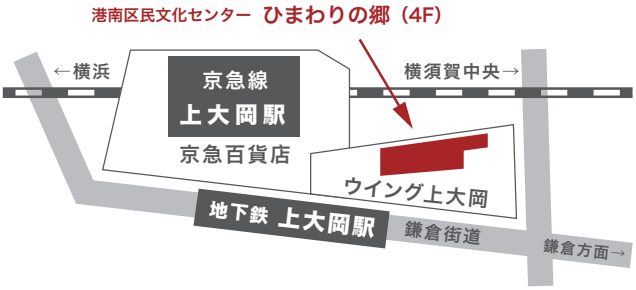
2019年5月25日（土）

午後1：30～4：30（開場1：00）

先着：340人（予約不要）　参加費：無料

港南区民文化センター
「ひまわりの郷」ホール

横浜市港南区上大岡西1-6-1 http://www.himawari-sato.com/



会場案内　【交通】※お車でのご来場はご遠慮ください。

京急線「上大岡駅」より徒歩３分

◆京急線「上大岡駅」：ホーム内横須賀寄りのエスカレーターで３階改札口を出たら左へ進み、ショッピングセンターウィング上大岡の専門店街の中を通り抜け、一番奥にあるエレベーターで４階へ。
エレベーターを降りると右前方に「ひまわりの郷」の入り口が見えます。

横浜市営地下鉄「上大岡駅」より徒歩１分

◆横浜市営地下鉄「上大岡駅」：6番出口よりウィング上大岡に入り右側のエレベーターで４階へ。
エレベーターを降りると右前方に「ひまわりの郷」の入り口が見えます。